

健やか

紙上 診察室

問 先端巨大症とはどのような病気でしょうか。

答 ヒトの脳の下部には下垂体という成長ホルモンを作る器官があります。下垂体に成長ホルモンを作る良性の腫瘍ができると、小児期以外でも大量の成長ホルモンが血中に放出されます。過剰な成長ホルモンで手足が大きくなったり、顔つきが変化する

56歳の男性です。高血圧と糖尿病で通院していますが最近、先端巨大症の疑いがあると診断されました。医師から手足が大きくなっていないか、顔つきが変わっていないかなど聞かれましたが、手足が大きいのは農作業のためだと思っていました。ただ、2年前の同窓会で同級生から顔つきが変わったといわれたことがあります。また、最近これまで履いていた靴のサイズが合わなくなり1センチほど大きな靴を履くようになりました。どのような治療が必要でしょうか。

(鹿児島市・H)

先端巨大症

成長ホルモンを正常化

鹿児島大学病院
脳神経外科

有田 和徳 教授



状態を先端巨大症といいますが。

問 この患者さんは顔つきの変化に気づいていないようですが。

答 先端巨大症では顔が全体的に大きくなる、目の上の骨が盛り上がる、下あごが出

る、鼻やくちびるが大きくなる、顔のしわが深くなるなどの変化が現れます。下あごの骨が長くなるためかみ合わせが悪くなり、顎関節症として治療を受ける人もいます。これらの変化は徐々に現れるので、本人や毎日顔をあわせている家族は気づかず、久しぶりに会った友人や知人に初めて指摘されるケースがほとんどです。

問 そのほかどのような特徴がありますか。

答 言葉の通り、手足が大きくなり、皮膚も厚くなります。このため靴のサイズが合わなくなったり、結婚指輪が入らなくなったりします。体重も増加します。舌が大きくなりなどの粘膜も肥厚するため、いびきをかいいたり、夜間睡眠時無呼吸と診断されたりします。そのほか、汗腺が発達し、手足やわきにあぶら汗をかきやすくなります。

問 外見上の変化が気にならなければ治療しなくてもいいですか。

答 いいえ。過剰な成長ホルモンによって、高血圧、糖尿病、心肥大、大腸がんなどの病気を併発します。このため、未治療の先端巨大症患者の死亡率は同年代健康者の2〜3倍に達します。

問 治療法について教えてください。

答 検査はどこでも可能です。採血で成長ホルモンやソマトメジンというホルモンの値が高ければ、内分泌内科や脳神経外科を紹介してもらえます。

問 これは見逃せないという症状はありますか。

答 足が大きくなって靴のサイズが合わなくなったら、まず先端巨大症を疑うようにしてください。

答 先端巨大症の原因である下垂体腫瘍は鼻の穴からの手術で摘出できます。早期の腫瘍であれば、2時間前後の手術で8割程度の確率で治療し成長ホルモンの値が正常になります。手術で治療が得られない場合は、飲み薬や注射

などで成長ホルモンの正常化を目指します。

問 成長ホルモンが正常になれば何が変わりますか。

答 まず体重が減ります。糖尿病や高血圧が改善します。いびきや夜間睡眠時無呼吸も改善します。これらの効果でその後の死亡率は、健康者と大きな違いはなくなります。

問 先端巨大症を疑ったらどこに行けばよいでしょうか。

答 検査はどこでも可能です。採血で成長ホルモンやソマトメジンというホルモンの値が高ければ、内分泌内科や脳神経外科を紹介してもらえます。

問 これは見逃せないという症状はありますか。

答 足が大きくなって靴のサイズが合わなくなったら、まず先端巨大症を疑うようにしてください。